

キーワードで見る

春



みなさんの春はいつから始まりますか？

四月という答えが多いかもしれませんが。

あるいは梅や桃、桜の花の頃でしょうか。

旧暦での「春」は、お正月の時期。

まだ気温の低い時期ですが、

生きものたちは活発に動き始めます。

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく、山際少し明かりて、

紫だちたる雲の細くたなびきたる

（清少納言 『枕草子』より）

モノサシ訳

春はあけぼのの頃がいいなあ。

だんだんと白くなり山際が少し明るくなって、

紫がかった雲が細くたなびいているところが素敵

「ウグイスの初鳴き」「ヒバリのさえずり」

「ホトトギスの声」「アオバズクの子育て」

「ぼかぼかしてくる」「風の匂いが変わってくる」

「風が暖かい」「上着がいらなくなる」

「目の前を新入生が通っていく」

「卒業証書を持った学生たち」

「イタドリ」「タケノコ」「ゼンマイ」「ツクシ」「タラの芽」「フキノトウ」
「摘みに行く」「天婦羅にして食べる」「煮物にする」

「田に水を引く」「田植え」「水鏡」

「小麦や大麦の収穫」「田面に映る雲」

「山がモコモコと成長して見える」

「新緑」「新芽」「カラフルな野山」

「あなたのキーワードは？」

「芽が膨らんできたとき」「蕾を見たとき」

「満開の頃」「花が散りゆく時」

ウドの香り シイ・カシ類の開花 花粉症 木の芽 サルトリイバラと柏餅 フラフが風に舞う ツバメが来る



くらしの自然モノサシ 西本五十六

高知・四万十に移り住んで十年が経ち、移住から定住モードになった今、暮らしの中の「自然」をあらためて見直してみた。

季節の移ろいを「五感」で身体いっぱい受け取る。都市生活の頃と比べると敏感になり季節を楽しむ様になったと思える。冬から春への移行期より、桜も散って「春真っ盛り」に飛来してくるオオルリ。

春の終わりの頃のアカシヨウビンやヤイロチョウを今か今かと待つ。これらの鳥の鳴き声は全て朝方のひととき、かすかに自然と聞こえてくる。

家の廻りを流れる四万十川の小さな二次支流では、「夏真っ盛り」に川の中の石がアートなカンバスの様に鮎の食み跡が写し出される。今夜の酒の肴に投網を打つ。

秋真っ盛り、毎年決まった処で頂く「むかご」を集めて棚田米の新米で「むかごご飯」に舌鼓。

冬は、動から静に視点を変えてひたすら春を待つ。薪ストーブの炎を見つめながら、この一年も「不便を楽しむ」を十分に堪能した四季でした。